

血液への唾液添加による腫瘍マーカー測定値への影響 血液への唾液添加による腫瘍マーカー測定値への影響

佐藤 京子,伊東 裕之,畑中 徳子,山本 慶和,松尾 収二(天理よろづ相談所病院)

唾液の混入が腫瘍マーカーの測定値に影響を与えることは古くから知られているが、その項目と程度は測定機により異なる。今回、唾液による影響を当院で検査している腫瘍マーカー6項目(AFP、CEA、CA19-9、PSA、シフラ、CA125)について検討したので報告する。

【対象および方法】 健常人5名(25~49歳)の起床時の唾液および唾液添加血清(健常人血清490ul+唾液の上清10ul)を試料とし、アーキテクトi2000(アボットジャパン)にてAFP、CEA、CA19-9およびPSAを測定し、エクルーシス2010(ロッシュ)にてシフラおよびCA125を測定した。

【結果および考察】 健常人5名の唾液そのものは、CEA 68.0~373.8ng/ml、CA19-9 123.0~46680.0U/ml、シフラ 1.85~12.92ng/ml、CA125 246.0~853.6U/ml、AFP <0.4ng/ml、PSA 0.028~0.208ng/mlであった。唾液添加血清では、シフラは対照血清0.80ng/mlに対して0.66~

0.88 ng/ml、AFPは対照血清2.0ng/mlに対して2.0 ng/ml、PSAは対照血清<0.001 ng/mlに対して<0.001~0.002 ng/mlと影響は認められなかった。一方、CEAは対照血清2.1ng/mlに対して3.3~5.5 ng/ml、CA125は対照血清16.1 U/mlに対して20.0~38.3 U/ml、CA19-9は対照血清13.8U/mlに対して14.9~937.1 U/mlと唾液中高値の項目が血清への添加でも高値を示した。この結果は、唾液の腫瘍マーカーが上乘せされたものか、それとも何らかの成分が正誤差を与えたかは不明だが、臨床所見と合わないデータに遭遇した場合、唾液の混入も念頭におくべきことを示した。

【まとめ】 血液への唾液添加により、シフラ、AFPおよびPSAは影響がみられなかったが、唾液中高値の項目であるCA125、CEAおよびCA19-9は高値を示した。

連絡先：07436-63-5611(内)8408